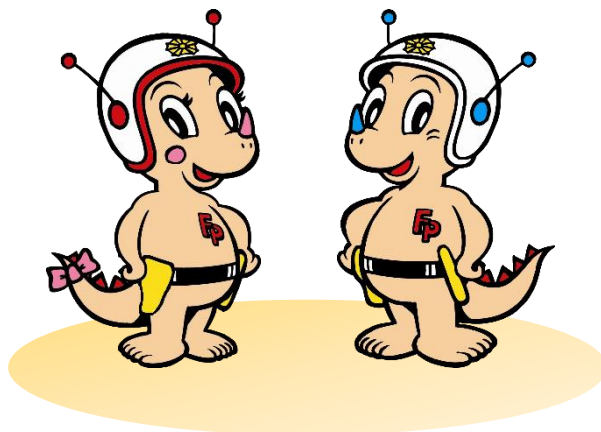


福井県の治安情勢 [5月末現在]

(令和6年5月末数値は暫定のものを含む。)



令和6年3月31日「 先導 ～ふくい桜マラソン～ 」



— 福井県警察 —

1 刑法犯

(1) 刑法犯の認知・検挙状況

認知件数は1,108件で、前年同期に比べて40件(3.5%)減少

検挙件数は807件で、前年同期に比べて241件(42.6%)増加

検挙率は72.8%で、前年同期に比べて23.5ポイント上昇

		R3	R4	R5	R6.5末
福井	認知件数(件)	2,714	2,664	2,840	1,108 (-40)
	検挙件数(件)	2,119	1,799	1,631	807 (+241)
	検挙人員(人)	1,100	1,051	1,183	468 (+83)
	検挙率(%)	78.1	67.5	57.4	72.8 (+23.5)
全国	認知件数(件)	568,104	601,331	703,351	288,515 (+16,846)
	検挙件数(件)	264,485	250,350	269,550	108,535 (+6,805)
	検挙人員(人)	175,041	169,409	183,269	74,169 (+4,391)
	検挙率(%)	46.6	41.6	38.3	37.6 (+0.2)

※1 表中の()内の数字は、前年同期比(以下同じ。)

※2 検挙率とは、当該年の認知件数に対する検挙件数(当該年の前年以前の認知事件の検挙を含む。)の割合

(2) 重要犯罪の認知・検挙件数

認知件数は37件で、前年同期に比べて23件(164.3%)増加

検挙件数は36件で、前年同期に比べて23件(176.9%)増加

【認知件数】

(単位:件)

	R3	R4	R5	R6.5末
殺人	3	5	6	1(-1)
強盗	1	1	2	2(+2)
放火	2	2	3	1(+1)
不同意性交等	13	7	10	23(+19)
略取・誘拐	3	2	0	1(+1)
不同意わいせつ	22	11	29	9(+1)
合計	44	28	50	37(+23)

【検挙件数】

(単位:件)

	R3	R4	R5	R6.5末
	4	5	6	1(-1)
	1	1	1	3(+3)
	2	2	3	1(+1)
	13	7	10	21(+17)
	3	2	0	1(+1)
	22	12	28	9(+2)
	45	29	48	36(+23)

(3) 防止重点8罪種の認知件数

認知件数は604件で、前年同期に比べて65件(9.7%)減少

(単位:件)

	R3	R4	R5	R6.5末
車上ねらい	123	160	81	46(+14)
自転車盗	293	310	542	152(-93)
万引き	443	562	513	252(+55)
置引き	114	142	143	37(-11)
器物損壊	220	156	206	68(-17)
空き巣	53	43	58	20(-10)
忍込み	252	20	20	23(+10)
住居侵入	51	61	55	6(-13)
合計	1,549	1,454	1,618	604(-65)

ア 主な施策

- 事業所の従業員やその家族に犯罪等に関する情報を発信する取組である「福井防犯力向上チャレンジ事業所」への参加呼びかけ
- 万引き被害防止に向けて量販店と連携した対策会議の開催
- さばえつつじまつり等の祭礼イベント会場における関係機関・団体と連携した防犯対策に関する広報



「福井防犯力向上チャレンジ事業所」
募集事業の開始式



量販店と連携した
万引き防止対策会議

2 子どもを犯罪から守る対策

(1) 子どもに対する声掛け事案等

ア 相談等件数

相談等件数は61件で、前年同期に比べ4件（6.2%）減少

（単位：件）

	R3	R4	R5	R6.5 末
小学生以下	100	55	63	33(+11)
中学生	55	41	45	16(- 1)
高校生	60	56	53	11(-12)
その他	3	1	5	1(- 2)
合計	218	153	166	61(- 4)

※ 声掛け事案等とは、性犯罪等の前兆とみられる声掛け、つきまとい等をいう。

イ 先制・予防的活動

検挙、指導・警告件数は35件で、前年同期に比べて5件（16.7%）増加

（単位：件）

	R3	R4	R5	R6.5 末
検挙	22	16	33	14(+12)
指導・警告	83	69	68	21(- 7)
合計	105	85	101	35(+ 5)

ウ 主な施策

- 「春の子供安全対策推進期間」において、子どもや保護者に対して防犯アプリ「ふくいポリス」の登録を呼びかけるとともに、地域住民等に対し、アプリを通じて声掛け事案等の不審者情報等をタイムリーに情報発信
- 通学路等における警戒・パトロールや、防犯ボランティア等と連携した見守り活動を強化するなど被害防止活動を推進
- 声掛け事案等の行為者を早期に特定し、検挙、指導・警告等の先制・予防的活動を推進
- 子どもの危険回避能力向上のため、保育園等で防犯教室や不審者対応訓練を実施



防犯ボランティア団体との
下校時の見守り活動



保育園における防犯教室

(2) 児童虐待事案の認知対応状況

ア 認知対応件数等

認知対応件数は191件で、前年同期に比べて46件(19.4%)減少

児童通告人員は192人で、前年同期に比べて8人(4.0%)減少

検挙件数は10件で、前年同期に比べて3件(42.9%)増加

		R3	R4	R5	R6.5末
認知対応件数(件)		547	521	528	191(-46)
児童通告	人員(人)	608	539	449	192(-8)
	身体的	60	59	59	17(-5)
	性的	4	0	2	0(±0)
	初々	26	16	31	13(-4)
	心理的	518	464	357	162(+1)
	うち面前DV	346	333	260	124(+3)
検挙件数(件)		33	17	21	10(+3)

イ 主な施策

- 児童相談所との24時間体制による情報共有と確実な児童通告の実施
- 児童虐待事案における連携を強化するため、児童相談所との連絡会を実施
- 車内放置による児童虐待の防止と発見した際の通報を呼びかける動画を作成し、SNSで情報発信するなどの広報啓発活動を推進



児童相談所との連絡会



児童の車内放置防止に向けた
広報啓発動画の一コマ

3 非行少年を生まない社会づくり

(1) 非行少年の推移

検挙・補導した非行少年は80人で、前年同期に比べて30人(60.0%)増加

(単位：人)

	R3	R4	R5	R6.5末
犯罪少年	74	82	168	73(+38)
触法少年	24	19	40	7(-7)
ぐ犯少年	0	0	1	0(-1)
非行少年総数	98	101	209	80(+30)

(2) 主な施策

- 犯罪実行者募集情報(いわゆる「闇バイト」)の危険性についての情報発信や、チラシ・動画・大型ビジョンによる広報啓発の実施
- すべての児童、生徒に内容が行き渡るよう、学校と連携した小・中・高校生に対する非行防止教室の開催
- 少年が多く集まる福井駅周辺の商業施設内に臨時的少年相談室を開設し、少年の悩みに耳を傾けるなどの立ち直り支援活動を実施



大型ビジョンを活用した
犯罪実行者募集情報の注意喚起



臨時的少年相談室を開設

4 女性を犯罪から守る対策

(1) 女性が被害者となる犯罪の認知・検挙件数

認知件数は63件で、前年同期に比べて2件(3.1%)減少

検挙件数は55件で、前年同期に比べて9件(14.1%)減少

(単位：件)

	R3		R4		R5		R6.5末	
	認知	検挙	認知	検挙	認知	検挙	認知	検挙
不同意性交等	13	13	7	7	10	10	6(+2)	4(±0)
不同意わいせつ	22	22	11	12	29	28	3(-5)	3(-4)
略取誘拐・人身売買	2	2	1	1	0	0	1(+1)	1(+1)
暴行	117	118	117	116	103	104	36(+2)	34(-2)
傷害	34	37	24	24	40	40	17(-2)	13(-4)
合計	188	192	160	160	182	182	63(-2)	55(-9)

(2) ストーカー事案の相談等・検挙状況

相談等件数は33件で、前年同期に比べて6件(15.4%)減少

検挙件数は10件で、前年同期に比べて5件(33.3%)減少

(単位:件)

	R3	R4	R5	R6.5末
相談等	130	122	90	33(-6)
検挙	37	20	31	10(-5)
禁止命令・警告	64	42	37	14(+1)

(3) DV事案の相談等・検挙状況

相談等件数は88件で、前年同期に比べて18件(25.7%)増加

検挙件数は36件で、前年同期に比べて6件(20.0%)増加

(単位:件)

	R3	R4	R5	R6.5末
相談等	236	190	203	88(+18)
検挙	99	80	112	36(+6)
保護命令	9	3	6	1(-3)
警告	109	85	88	43(+9)

(4) 主な施策

- ストーカー・DV事案に係る被害者の迅速な安全確保と行為者に対する指導・警告、検挙措置の徹底
- 北陸新幹線の延伸開業に伴う宿泊者の増加を踏まえ、ホテル従業員に対する防犯講習を実施し、企業の中で相談窓口の役割を担う女性従業員を「レディースガードリーダー」として委嘱。
- 北陸新幹線の開業にあわせ、JR福井駅において、痴漢撃退機能を備えた防犯アプリ「ふくいポリス」の加入促進や、痴漢・盗撮などの防止に向けた広報啓発を実施
- 精神科医やカウンセラーと連携し、ストーカー行為者に対して、治療に関する助言を行うなど、行為者の更生を支援 (R6.5末:9件実施)



コートヤード・バイ・マリオット福井における従業員への防犯講習



痴漢・盗撮被害の防止に向けた広報啓発

5 特殊詐欺対策

(1) 特殊詐欺の認知件数及び被害額 (※ 被害額の千円未満は四捨五入)

- ・ 特殊詐欺の認知件数は8件で、前年同期に比べて5件(38.5%)減少
- ・ 被害金額は約5,677万2千円で、前年同期に比べて約3,772万5千円(198.1%)増加

【被害の特徴】

- ① 被害者は、65歳以上の高齢者の割合が多い(8件中6件、75%)
- ② 手口別では、架空料金請求詐欺、キャッシュカード詐欺盗が多い(いずれも8件中3件、37.5%)
- ③ 交付形態別では、「振込型」1件、「現金手交型」2件、「電子マネー型」1件、「キャッシュカード窃取型」3件、「送付型」1件

	R3		R4		R5		R6.5末	
	認知 (件)	被害額 (千円)	認知 (件)	被害額 (千円)	認知 (件)	被害額 (千円)	認知 (件)	被害額 (千円)
オレオレ	0	0	3	7,000	7	19,080	2(-2)	2,000(-6,080)
預貯金	5	6,076	8	5,315	5	14,892	0(-1)	0(-1,000)
架空料金請求	6	59,398	10	12,558	14	24,284	3(-4)	52,540(+43,072)
還付金	12	8,999	3	2,291	2	995	0(-1)	0(-499)
キャッシュカード詐欺盗	4	3,420	2	2,500	1	1,091	3(+3)	2,232(+2,232)
合計	27	77,893	26	29,664	29	60,342	8(-5)	56,772(+37,725)

※ 近年県内で発生している手口のみ記載

※ 預貯金詐欺とは、親族や警察官、銀行協会職員等を装い、口座が犯罪に利用されているなどと騙って、交換手続き名目でキャッシュカード、クレジットカード、預貯金通帳等をだまし取るもの。

※ キャッシュカード詐欺盗とは、オレオレ詐欺等の手口で被害者に接触し、被害者の隙を見てキャッシュカード等を窃取する窃盗をいう。

(2) 検挙状況（助長犯罪*を含む。）

検挙人員は16人で、前年同期と同じ

	R3	R4	R5	R6.5末
検挙件数（件）	40	57	64	22(-3)
検挙人員（人）	31	33	43	16(±0)

※ 助長犯罪とは、売却目的で携帯電話や預貯金口座を不正に取得するなど、特殊詐欺を助長する犯罪をいう。

(3) 主な施策

特殊詐欺撲滅対策プロジェクトチームによる被害防止と検挙を両輪とした対策を推進
ア 被害防止対策

- 国際電話の使用を休止するサービスや、通信事業者が行う番号非通知着信拒否サービス等、固定電話による被害を防止するためのハード対策の促進
- 特殊詐欺被害防止コールセンターの開設
- 現役世代を含めた幅広い世代の被害を防止するため、「福井防犯力向上チャレンジ事業所」（再掲）を募集し、情報提供・広報啓発を実施
- 「福井県特殊詐欺撲滅ネットワーク会議」の開催等、金融機関や企業、団体等との連携による官民一体となった被害防止対策
- 予兆電話認知時等における防犯アプリ「ふくいポリス」等によるタイムリーな情報発信
- 制服警察官による高齢者宅への巡回連絡や出前講座等の直接指導

国際電話の休止について

固定電話への国際電話の発着信休止は無償です！
海外との電話が不要な方は、詐欺防止のため、ぜひお申し込みください。

お申込み・お問い合わせはこちら
国際電話不取扱受付センター
0120-210-364
(通話料無料)
もしくは最寄りの警察署にご相談ください。

固定電話に国際電話がかからない施策の推進
(国際電話休止)



特殊詐欺被害防止
コールセンターの開設

イ 検挙対策

- 県内に流入する受取役被疑者の徹底検挙
- 全国の特殊詐欺連合捜査班との連携による犯行グループの壊滅に向けた取締り
- 携帯電話や預貯金口座の不正取得など、特殊詐欺を助長する犯罪の取締りと犯行ツールの無力化対策の推進

6 SNS型投資・ロマンス詐欺対策

(1) SNS型投資・ロマンス詐欺の発生件数及び被害額(※ 被害額の千円未満は四捨五入)

SNS型投資・ロマンス詐欺とは、SNS等を通じて対面することなく、交信を重ねるなどして信用させ、金銭をだまし取るもので、被害相談を含む発生件数は94件、被害金額は約6億4,344万円3千円

【被害の特徴】

- ① 被害者は、60歳代が最も多いが、特殊詐欺に比べ幅広い世代が被害に遭っている
- ② 被害のきっかけは、「SNS」53件、「ウェブサイト」20件、「マッチングアプリ」15件、その他6件
- ③ 交付形態別では、「振込」76件、「暗号資産」14件、「現金手交」1件、その他3件

	R5		R6.5末	
	件数(件)	被害額(千円)	件数(件)	被害額(千円)
投資詐欺	131	1,111,357	81(+46)	551,765 (+314,228)
ロマンス詐欺	15	130,933	13(+9)	91,678 (+3,074)
合計	146	1,242,290	94(+55)	643,443 (+317,302)

※ 件数及び被害額は被害相談を含む

(2) 主な施策

SNS型投資・ロマンス詐欺対策プロジェクトチーム(R6.5設置)を中心に総合的な被害防止対策及び検挙対策を推進

ア 被害防止対策

- 投資経験者の被害が多いことに着目し、県内証券会社と連携して広報啓発を実施
- 防犯アプリ「ふくいポリス」の活用や、「福井防犯力向上チャレンジ事業所」(再掲)の募集による現役世代を含めた幅広い世代に対する広報啓発
- 関係機関・企業・団体と連携した取組の推進

イ 検挙対策

- 被害実態や犯行手口の一元的な集約、詳細な把握・分析による実態解明の推進
- 暴力団や匿名・流動型犯罪グループなど犯罪組織の関与を視野に入れた取締り
- SNS等のアカウントや暗号資産の口座など犯行ツールに関する捜査及び措置



SNS型投資・ロマンス詐欺対策
プロジェクトチーム会議



証券会社と連携した広報啓発活動

7 暴力団等組織犯罪対策

(1) 暴力団対策

ア 検挙状況

検挙人員は22人で、前年同期に比べて5人(29.4%)増加 (単位:人)

	R3	R4	R5	R6.5末
刑法犯	31	26	38	11(-2)
特別法犯	19	27	16	11(+7)
合計	50	53	54	22(+5)

イ 山口組分裂に伴う諸対策

- 「六代目山口組・神戸山口組対立抗争集中取締本部」を継続し、暴力団犯罪の取締りと暴力団関係箇所の警戒活動を徹底(H29.4~)

ウ 暴力団排除活動の取組

- 県内の事業活動等における暴力団等からの不当な要求行為等を防止するための支援の実施など、暴力団等の資金源を封圧するための諸対策を推進
- 県暴力追放センターをはじめとする関係機関との連携を一層強化し、より効果的な暴力団排除活動を戦略的に推進



県暴力追放センター通常理事会



県企業防衛対策協議会総会

(2) 薬物犯罪対策

ア 検挙状況

検挙人員は34人で、前年同期に比べて11人(47.8%)増加 (単位:人)

	R3	R4	R5	R6.5末
覚醒剤	29	43	50	21(+11)
大麻	29	27	28	12(+1)
その他	11	7	5	1(-1)
合計	69	77	83	34(+11)

イ 取締り

覚醒剤取締法違反（所持・使用）等事件（R6.4～）



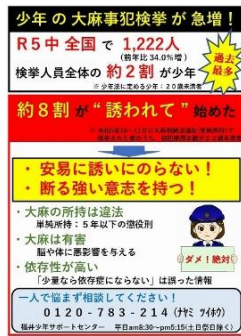
押収した覚醒剤と注射器



押収した錠剤型覚醒剤

ウ 主な施策

若年層による薬物犯罪の防止に向け、サイバーパトロールによる違法・有害情報の排除、小・中・高校や大学生、企業に対する薬物乱用防止講座、SNSやポスター等を活用した広報啓発活動等を推進



県警 SNS やメールマガジンによる啓発



高校における薬物乱用防止講座

8 来日外国人犯罪の対策

(1) 検挙状況

検挙件数は64件で、前年同期に比べて19件（42.2%）増加

検挙人員は13人で、前年同期に比べて8人（38.0%）減少

	R3	R4	R5	R6.5末
検挙件数（件）	160	97	82	64(+19)
刑法犯	125	66	54	56(+21)
特別法犯	35	31	28	8(-2)
検挙人員（人）	86	63	50	13(-8)
刑法犯	59	36	32	8(-6)
特別法犯	27	27	18	5(-2)

(2) 主な施策

- 外国人留学生や技能実習生に対する防犯講習・法令指導の実施
- ヤード(中古自動車、船舶の買取・輸出)に対する立入り調査の実施

9 サイバー犯罪対策

(1) サイバー犯罪関連の相談受理事件数

相談件数は1,183件で、前年同期に比べて401件(51.3%)増加 (単位:件)

相談区分	R3	R4	R5	R6.5末
詐欺・悪質商法	996	956	1,127	639(+220)
違法・有害情報	98	58	55	33(+13)
名誉棄損・誹謗中傷	118	89	69	63(+50)
不正アクセス、コンピュータ・ウイルス	239	406	232	107(+36)
迷惑メール	122	242	292	138(+6)
クレジットカード番号盗取等	177	202	219	134(+49)
その他	151	189	78	69(+27)
合計	1,901	2,142	2,072	1,183(+401)

(2) 検挙状況

検挙件数は19件で、前年同期に比べて1件(5.0%)減少 (単位:件)

	R3	R4	R5	R6.5末
不正アクセス禁止法違反	2	3	1	2(+2)
コンピュータ・電磁的記録対象犯罪	4	12	3	0(0)
ネットワーク利用犯罪	52	52	66	17(-3)
詐欺	13	24	30	6(-4)
児童買春・児童ポルノ法違反	3	3	2	1(0)
県青少年愛護条例違反	4	3	3	0(-1)
わいせつ物頒布等	4	0	0	0(0)
その他	28	22	31	10(+2)
合計	58	67	70	19(-1)

※ コンピュータ・電磁的記録対象犯罪とは、刑法に規定されているコンピュータ又は電磁的記録を対象とした犯罪をいう。

(3) 主な施策

- 県内セキュリティ事業者と連携したランサムウェア感染・復旧などの体験型セミナーの開催
- サイバー防犯ボランティアと連携したサポート詐欺の手口やSNS利用の危険性を周知するための広報啓発活動



体験型セミナーの開催



サイバー防犯ボランティアによる
広報啓発活動

10 交通事故から県民を守る対策

(1) 交通事故の発生状況

ア 交通死亡事故の特徴等

- 死者のうち、高齢者が占める割合が高い 8人中7人 (87.5%)
- 歩行中、自転車乗用中の死者が半数を占める 8人中4人 (50.0%)
- 歩行中、自転車乗用中死者全てが高齢者 4人中4人 (100.0%)
- 高齢運転者が第1当事者となる事故が多い 8件中3件 (37.5%)

【交通事故発生状況】

	R3	R4	R5	R6.5末
総事故件数(件)	19,811	20,366	21,582	8,828(+137)
人身事故件数(件)	912	939	986	381(+ 2)
死者数(人)	26	27	20	8(+ 1)
傷者数(人)	1,029	1,063	1,133	436(+ 8)
重傷者数(人)	176	191	200	92(+ 17)
物損事故件数(件)	18,899	19,427	20,596	8,447(+135)

※ 全国の交通事故死者数 (R6.5末) は984人で、前年同期に比べて21人減少

【年齢層別・当事者別死者数 (R6.5末)】

(単位：人)

	自動車等				自転車	歩行者	その他	合計
	自動車	自動二輪車	原付	計				
29歳以下	0	0	0	0	0	0	0	0(±0)
30歳代	0	0	0	0	0	0	0	0(±0)
40歳代	0	0	0	0	0	0	0	0(±0)
50歳代	1	0	0	1	0	0	0	1(±0)
60～64歳	0	0	0	0	0	0	0	0(±0)
65歳以上	3	0	0	3	1	3	0	7(+ 1)
75歳未満	2	0	0	2	1	0	0	3(+ 1)
75歳以上	1	0	0	1	0	3	0	4(+ 0)
合計	4	0	0	4	1	3	0	8(+ 1)

イ 主な施策

- 交通事故発生実態等に即した交通指導取締り
- 関係機関・団体と連携した広報啓発活動
- 学校、公民館等における交通安全教育

(2) 高齢交通弱者対策

ア 高齢者（65歳以上）が犠牲となる交通死亡事故

高齢者の死者は7人で、前年同期に比べて1人増加

高齢者の死者数は8人中7人と約9割を占める（87.5%）

	R3	R4	R5	R6.5末
全死者数（人）	26	27	20	8(+ 1)
高齢死者数（人）	16	20	14	7(+ 1)
構成率（%）	61.5	74.1	70.0	87.5(+1.8)

イ 高齢交通弱者が犠牲となる交通死亡事故

高齢交通弱者（歩行中・自転車乗用中）の死者は4人で、前年同期に比べて2人増加

（単位：人）

	R3	R4	R5	R6.5末
高齢交通弱者の死者数	10	12	4	4(+2)
歩行中	8[7]	9[8]	3[3]	3[3] (+1[1])
夜間歩行中	7[6]	3[2]	1[1]	2[2] (+1[1])
自転車乗用中	2	3	1	1(+1)

※[]は反射材非着用

ウ 主な施策

- 高齢者を対象とした交通安全教室の開催
- 各種警察活動を通じた反射材の直接貼付活動
- 自転車利用者に対する交通指導取締り



高齢者を対象とした
交通安全教室の開催



反射材の直接貼付活動

(3) 高齢運転者対策

ア 高齢運転者が第1当事者となる交通死亡事故*

全ての交通死亡事故のうち、高齢運転者が第1当事者となる交通死亡事故は3件（前年同期比－1件）で、全体の約4割（37.5%）を占める。

（単位：件）

	R3	R4	R5	R6.5 末
交通死亡事故件数	25	26	20	8(+ 1)
高齢運転者が第1当	10	11	10	3(- 1)

※ 高齢者が運転免許を必要とする車両を運転して第1当事者となった交通死亡事故

イ 年齢層別・当事者別死亡事故件数（第1当事者）（R6.5 末）

（単位：件）

	自動車等				自転車	歩行者	その他	合計
	自動車	自動二輪車	原付	計				
29歳以下	0	0	0	0	0	0	0	0(- 1)
30歳代	2	0	0	0	0	0	0	2(+ 1)
40歳代	0	0	0	0	0	0	0	0(±0)
50歳代	2	0	0	0	0	0	0	2(+ 1)
60～64歳	1	0	0	0	0	0	0	1(+ 1)
65歳以上	3	0	0	0	0	0	0	3(- 1)
75歳未満	2	0	0	0	0	0	0	2(+ 1)
75歳以上	1	0	0	0	0	0	0	1(- 2)
合計	8	0	0	0	0	0	0	8(+ 1)

ウ 主な施策

- 高齢者宅訪問による交通安全指導
- 公民館等における免許証自主返納出張窓口の開設等、自主返納しやすい環境づくりに向けた取組
- 運転技能自動評価システム（通称オブジェ）を活用した交通安全指導



免許証自主返納出張窓口の開設

(4) 悪質・危険運転者対策

ア 飲酒運転を伴う人身事故（自動車及び一般原動機付自転車）

飲酒運転を伴う人身事故は4件で、前年同期に比べて2件減少（-33.3%）、死亡事故の発生なし

	R3	R4	R5	R6.5 末
人身事故件数（件）	13	9	20	4(-2)
死亡事故件数（件）	3	1	0	0(±0)
構成率（%）	23.1	11.1	0	0(-)

イ 飲酒運転の取締り

飲酒運転の検挙件数は59件で、前年同期に比べて12件増加（+25.5%）

	R3	R4	R5	R6.5 末
検挙件数（件）	155	119	175	59(+12)

ウ 速度違反の取締り

速度違反の検挙件数は1,712件で、前年同期に比べて2,490件減少（-59.3%）

	R3	R4	R5	R6.5 末
検挙件数（件）	12,502	10,741	9,665	1,712(-2,490)

エ 横断歩行者妨害違反の取締り

横断歩行者妨害違反の検挙件数は659件で、前年同期に比べて214件増加（+48.1%）

	R3	R4	R5	R6.5 末
検挙件数（件）	1,988	858	1,216	659(+214)

オ 主な施策

- 飲酒運転取締り検問の実施と広報啓発活動の推進
- 幹線道路における可搬式速度違反自動取締装置等を活用した速度取締り
- 取締重点横断歩道を中心とした横断歩行者妨害違反の取締り



飲酒運転取締り検問の実施



幹線道路における速度取締り